

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	SDGs こどもかるた			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	兵庫県立尼崎北高等学校		
	活動 グループ名	72 期生環境類型クラス	参加学生 等人数	40 名
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称			
	責任者氏名	大道正、吉田英一	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	あまがさき環境オープンカレッジ		
	代表者氏名	大原一憲	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	SDGs の課題は、認知度の低さ、難しさ、高すぎる目標、絵空事に思えることなどがあります。ただ、「誰一人取り残さない」という精神は福祉の根幹であり、市民の方々と共に考え、共に学ぶことを目指したいと考えています。 本校は「地球・地域とつながる尼北」をスローガンとし、環境類型クラスはその中心として、地球環境、人間環境を広く学び、地域社会との交流を深める活動を続けています。 創立100周年を記念して環境類型クラスでなんかできることはないかと考え、SDGsを広めるための「かるた」の製作を思いつきました。調べてみると、すでにいくつかの団体が製品化していますが、小学生に完全にフィットする「こども目線」のものが作れないかと考え、SDGsについて徹底的に研究し、小学生や市民の方々、こども食堂、環境オープンカレッジの意見をひとつにまとめたかるたを作りたいと考えました。			
活動内容及び 実績、評価	1. 活動内容及び実績 (1) 大型試作品の作成。 ① かるたの句の作成。 「あ」から「わ」までで44枚。 小学生にわかる表現と内容。 少ない文字数でリズム良くまとめる。 ② 絵札の作成 いろいろ試行錯誤したが、結局、原画は色鉛筆で描くこととした。 シンプルでわかりやすい絵。 (2) 市民の方々に公開して、できればこどもからの意見も集約。 かるたを接写し、スライドショー形式で展示。 かるたの「句」の一覧プリントを配り、もっという案を書いてもらう。 ① 本校文化祭…一般公開中止。 ② 市民祭…中止。 ③ 100 周年記念行事…公開中止。 ④ 立花支所イベント…中止。 ※ 中止のため、接写した画像を整理加工し、一覧プリントができたところで計画中断。 (3) かるたの「句」の改良。 ① 72期生環境類型で新しい句を考えた。 ② 71期生環境類型で新しい句を考えた。 ③ 環境オープンカレッジにアドバイスと新しい句をいただいた。 (4) かるたに対するコロナ対策。 対面でプレーするため、距離を取りたい。			

- ① リモートハンドの開発。
生徒がアイデアを出し、試行錯誤で改良しました。
- (5) SDGsについての学習
ネットから情報を集め、全員が学習しました。
- (6) 製品版製作の延期…今年度の計画断念。
 - ① 市民の方々、特に小学生との交流が全くできず、意見の収集ができなかった。
 - ② コロナによる活動制限で、部活以外で放課後残れる期間がほとんど無かった。
 - ③ SDGsについて学ぶ中で、かるたの「句」を考える方向の転換が必要となった。
(評価の欄に記述)
- (7) 公開予定
 - ① 6月のエコあまフェスタでの公開を考えています。
- 2. 評価
- (1) 学生

活動制限や交流禁止で思った活動ができなかった。
かるたに適した絵の描き方を考えることができた。
描き手による絵のばらつきが出にくいように相談できた。
市民イベントでの展示方法について、スライドショーなどを考えることができた。
かるたのコロナ対策として、こどもたちが密にならないためのリモートハンドを考案した。
SDGsについて調べ学習をする中で、かるたを作る方向性の間違いに気づいた。
「あ」で良い句、「い」で良い句と選んでいたが、ターゲットに偏りや重なりができていたことに気づいた。このかるたをこどもたちにSDGsを広めるものにするには、まず、SDGsから特に伝えたい44のターゲットを選び、それを五十音に当てはめるという全く違うアプローチが必要でした。
- (2) 市民活動団体の活動者

イベント中止や交流禁止で評価していただくこともできない中、協働団体の環境オープンカレッジの方々には、大人目線であるかるたの句を考えて下さり、アドバイスをいただきました。企画には期待をもっていたので、今後どう継続するか考えます。
- (3) 指導教員の視点
 - ① 想定していた活動成果に対する達成度合い
印刷した製品版が完成できなかったことは申し訳なく思います。印刷段階に進めなかったため、補助金は半額以上返還させて下さい。申しわけありません。
イベントが全て中止になり、市民の方々や小学生と交流できないまま、日々の学校運営上の感染対策、感染者や濃厚接触者の対応、学年閉鎖、活動制限などに追い立てられ、作戦を練り直す余裕がないまま時間が流れてしまいました。
不満足なままで後悔の残るものを見切り発車して印刷してしまうのではなく、責任あるものを完成するために、踏みとどまって、再び練り直す勇気を持つことにしました。
 - ② 学生等が関わった地域、団体の活動の変化等
校外活動禁止や校内への入場制限で、直接ふれ合うことはほとんど不可能でした。しかし、プロジェクトの意義に共感していただき、エコあまフェスタに関わる方々、小学校、公民館などから、「完成したら使わせてほしい」という声を多数いただき、生徒達は勇気づけられました。
 - ③ 学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等
最初は、かるたを44枚そろえれば良いという考えでしたが、目的はSDGsを広めることなので、44枚という制限の中に、伝えたいメッセージを詰め込んでゆかという非常に難しいプロジェクトだと実感するようになり、仕切り直してSDGsについて考え、できれば環境類の後輩、73期や74期生につないでゆければと思うようになりました。
地域に対しては、地域の中で高校生の自分たちにできる役割を考え、大人の人達に見守られる中で、より近い目線から小学生に伝えてゆけるものを探したいと思いました。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。